

令和4年10月31日
(2022年)

保護者の皆さまへ

吹田市立第五中学校
校長 木谷美香

令和4年度 全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、3年生を対象として「令和4年度全国学力・学習状況調査」を実施し、8月下旬に個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。この調査は中学校の第3学年のみを対象とした調査であり、教科も国語・数学・理科の3教科です。また、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことを踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えています。

対象となった3年生には、よりきめ細かな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導方法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にさせていただきますようお願いいたします。

1 教科に関する調査結果の分析

●国語《概要》

以下項目

「言葉の知識」

- ・漢字についての平均正答率は全国、大阪府をやや上回っている。

「話すこと・聞くこと」

- ・**1**三「川口さんのスピーチの工夫」の条件は2つあり、それに従ってじっくり考えていく前に次の問題に進み、解答欄が空白のままの生徒が4割近くにも上っており、正答率は全国、および大阪府を下回っている。

「書くこと」

- ・**2**三「農業」と「先端技術」を取り入れることについては「例えば」からの書き出しがあるので、積極的に記入する生徒も多く、正答率は大阪府を上回り、全国とほぼ同じである。しかし無解答が1割強あった。

「読むこと」

- ・**3**四「なるほど」については、**1**三より身近な部分もあり、解答欄が空白のままの生徒が2割程度であった。正答率は全国値および大阪府を下回っている。

「我が国の言語文化に関する事項」

- ・書写については漢字の行書は全国をやや下回り、および大阪府とほぼ同じである。
- ・ひらがなの行書については全国、および大阪府を下回っている。

●国語における成果と今後の改善点について

- ①時間的な余裕があるにもかかわらず、じっくり考えることなくすぐに諦める部分が多い。
- ②漢字、文中から語句を見つけ出す問いや記号で解答する問題には意欲的だが、自分の意見を書く問いでは、考えぬくこと、書くことへの苦手意識が見られた。

<改善点>

各種問題に対する時間配分を考え、落ち着いて再度解きなおすなど、粘り強く考える練習を授業中に増やす。また、問題用紙に、自分が重要と考えた場所にアンダーラインなどを引くなど、要点をつかむ方法を示すとともに、書くことへの慣れと安心感を増やすようにノートに短時間で感想などを書く機会を増やす。

●数学《概要》

以下項目

「数と式」

- ・平均正答率は、全国と比べて下回り、大阪府と比べてやや下回った。
- ・問題別集計結果を見ると、「素因数分解」「ある偶数との和が4の倍数になる数」において平均正答率が全国・大阪府ともに下回った。

「図形」

- ・平均正答率は、全国・大阪ともにやや上回った。
- ・問題別集計結果を見ると、どの問題にも概ね平均正答率が全国・大阪府ともにやや上回った。

「関数」

- ・平均正答率は、全国・大阪ともに下回った。
- ・問題別集計結果を見ると、「座標の問題」「方法を数学的に説明する問題」において、平均正答率が全国・大阪ともに下回った。

「データの活用」

- ・平均正答率は、全国と比べて下回り、大阪府と比べてやや下回った。
- ・問題別集計結果を見ると「箱ひげ図」の問題において、平均正答率が全国・大阪ともに下回った。

●数学における成果と今後の改善点について

- ①全体の平均正答率は全国・大阪ともにやや下回った。
- ②学習指導要領における4つの領域において、図形の領域のみ大阪・全国をやや上回っていた。
- ③問題別集計結果から、基礎的な計算力は身につけているが、グラフ・データ・文章から読み取り、表現する力に課題があることが読み取れる。

<改善点>

数学的な技能を問われる問題に対する理解は、全体的に低い結果となった。毎回の授業で基礎的な計算以外の、「図形」「関数」「資料の活用」の問題を解く時間を作り、4つの領域の力を偏ることなく伸ばす必要がある。また、数学用語の理解や問われたことを自分の言葉で書き表すことを苦手とする生徒が多いことが分かった。授業の問いかけに対して、様々な解答や考え方が認められるような授業作りをより一層強化する必要がある。

●理科

以下項目

「エネルギー」

- ・平均正答率は、全国と比べると下回り、大阪府と比べるとやや下回る結果となった。

「粒子」

- ・平均正答率は全国と比べると下回り、大阪府と比べるとやや下回る結果となった。

「生命」

- ・平均正答率は、全国と比べると下回り、大阪府と比べるとほぼ同じであった。

「地球」

- ・平均正答率は、全国と大阪府とを比べると下回る結果となった。

●理科における成果と今後の改善点について

- ①全体の平均正答率は全国・大阪ともにやや下回る結果であった。
- ②学習指導要領における4つの領域において、大阪府の平均正答率をやや下回った。
- ③問題別集計結果の中で、全国の正答率と比較した際、全体的に下回っている結果であった。その中でも知識・技能の問題が全国平均と比べると下回っている数が多いことから基礎的な知識を問う問題に課題がある。
- ④記号を選択する問題や短答式の問題での解答率は高いが、記述式の問題になると、無解答率が全国・大阪府を上回っている点から、与えられた資料から筋道を立てて説明することに苦手意識がある傾向が伺える。

<改善点>

知識・技能の正答率が低いことから、授業内で基礎問題を解く演習を増やすとともに、生徒が知識を活用する場を、実験の機会に設けることで、知識と技能の定着の強化を目指す。また、記述解答も全国・大阪府ともに比較すると下回っているため、実験・実習において、予測を立てたり、考察・結果を生徒同士で共有する方法を工夫することで、思考・判断・表現する力の育成を図る。

2 生活習慣や学習環境等に関する調査の傾向

【学習環境・生活環境について】

- ・本校では朝食をとっていない生徒の割合が、全国と比べ少し高い。
- ・毎日の生活リズムとして、寝る時間・起きる時間が昨年と比べ安定してきており、全国・府平均と比較しても、否定的意見の割合がやや低くなってきている。
- ・一日の携帯電話やスマートフォン使用時間が、全国・府平均と比較して長い傾向がある。

【教科・学習について】

- ・「自分と違う意見について考えるのは楽しいですか」および「友だちと協力するのは楽しいですか」の問いについて、およそ8割～9割近くの生徒が肯定的回答であった。
- ・調査を実施した国語・数学・理科の教科において、「〇〇の勉強は好きですか」の問いで、肯定的回答は6割近くを占めているが、国語と理科は全国値を下回っている。
- ・「家庭で計画的に学習ができているか」の問いで、肯定的意見は全国平均値を下回っているが、府平均値は上回っている。

3 今後の取り組み

本校では3年間にわたり、基礎学力の定着を目指し「朝読書」や「週末課題」などの取り組みを実施してまいりました。同時に、自分と違う意見について考えたり、生徒同士の協力を楽しんでいるという意見が、調査結果を見て多くなってきたことから、生徒自身が主体的に学習に取り組むための授業の工夫や、学ぶ意欲を高める授業づくりを推進する必要性を改めて感じました。そこで今年度より、「課題解決力を育む授業改善」をテーマとして掲げ、各教科において生徒同士が多様な課題に取り組めるような授業づくりを研究・推進しております。しかし、今回の調査結果では「ICT機器を活用した授業づくり」の各項目において全国・府平均値を大きく下回っている現状が浮き彫りとなりました。今後は情報担当を中心に、授業における有効なICTの活用について一層の充実を目指します。

今年度も生活環境や学習習慣の面で、五中生の優しさや素直さを表す質問項目に対して、肯定的な回答が全国値を上回っており、これからもその良さを伸ばすため、各種行事や活動を計画してまいります。コロナ禍における活動制限の中で携帯電話やスマートフォンの使用時間が長くなっている一方、地域の行事への参加機会が減少しており、全国平均を下回っているという課題も見えました。

今後とも、学校と家庭と地域が一体となり、生徒の成長に向けた教育活動の充実に取り組んでいきたいと考えておりますので、ご支援・ご協力・ご指導を、よろしくお願いたします。